

エコツーリズムの環境保全における意義に関する研究

左海 篤郎

キーワード：旅行、エコツーリズム、エコツアー、選択型コンジョイント分析

1. はじめに

近年、観光業界において「エコツーリズム」とよばれる旅行形態が、期待を集めている。消費者においても、より環境にやさしい生活を送ろうという意識を持つ層が増加しており、彼らの受け皿としてのエコツーリズムが注目されつつある。また最近では行政も積極的に推進や支援を始めており、地域の環境保全や地域振興の手段としても期待されている。しかし、各人の考えるエコツーリズム像は様々であり、エコツーリズムやエコツアーの定義に対する明確な合意がない。このような状況下で、エコツーリズムとはどうあるべきかについて考察するとともに、現状との比較を通じてエコツーリズムの環境に対する意義を明らかにすることが本論文の目的である。

2. 研究方法

まず、エコツーリズムとは何かという命題に対し、その用語的解釈、歴史的経緯や現状からアプローチし、現在抱えている問題点を明確にした。この問題点を解決するためにはエコツーリズムという概念の再構築が必要であることを示し、環境的側面を必須条件とする形でエコツーリズムの概念像を構築した。また、この新たな概念像をもとに、現状においてエコツアー参加者および一般の消費者がどのようにエコツーリズムを認識しているかについて、アンケート調査を実施した。また、選択型コンジョイント分析の手法を用いて、仮想サイトへのエコツアーを設定し、エコツーリズムの環境的側面について定量的に分析した。

3. 結果と考察

様々な角度からの検討の結果、抱えている問題点は「理念と実践の乖離」に起因するものであり、それは「エコ」に対する人々の認識の違いと、他の旅行形態とエコツーリズムとの混同という2点に分類された。エコツーリズムの再構築プロセスの検証により、環境的側面を必須とし、経済面と文化面を加えた形でエコツーリズムを再定義し、これらの問題の解決を図った。

またアンケート調査の結果、全体の9割近くの方が興味関心を示しており、潜在的な利用者数は相当数にのぼることが推察されたが、多くは非日常的体験を重視しており、環境的側面は軽視しないまでもファーストチョイスとはみなしていないことが明らかになった。次に環境的側面に関して、消費者の意識に対するコンジョイント分析を行い、より自然に接する形のオプションについて正の効用値を持っていることが分かったが、より環境への貢献につながるような形のオプションについては、はっきりした傾向は表れなかった。

4. 結論

以上を総合すると、現状では、消費者は環境に積極的に貢献する形のエコツーリズムについてはそれほど重要視していないことが明らかになった。しかし、エコツーリズムはまだまだ発展途上の段階にあり、制度的な進展や消費者の高い関心を踏まえれば、この認識は近い将来改められる可能性が示唆された。そのためには、自然環境に積極的に貢献するが体力や知識を要する敷居の狭いツアーよりも、一般消費者が気軽に参加しやすい、間口の広いツアーに多くの人々が参加してもらうのを優先すべきであると考えられる。よって、現状におけるエコツーリズムの環境保全における意義とは、将来の進展のために環境負荷をできるだけ低く抑え、将来より積極的に貢献するエコツアーに参加してもらうための土台作りにあると考えられる。